

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I

特集

私たちの周りの認知症
これって、病気なの？

—令和5年6月14日 認知症基本法成立—

2023

vol.41

SUMMER



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

認知症でも希望を持って暮らせる 共生社会の実現をめざしましょう！

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子



わが国の新型コロナウイルス感染症は、感染症法上5類に変更され、コロナ前の社会活動が戻ってまいりました。新型コロナ感染症者数も全例集計・報告ではなく、定点観測者数のみの発表となり、一見新型コロナ感染症は社会的に目立たなくなりました。

しかしながら、定点観測の結果から推計し、医療現場からの情報も加えると、感染者数は増加し、沖縄に次ぎ鹿児島県は全国で2番目に多いことが推計されています。

社会活動の活発化と新型変異株への感染増加が相まって、第9波の上昇中とする見方も多くなっています。

国民の8割がコロナウイルスに感染し免疫を有するとされている米英等に比べ、わが国では未だ全国民の4割しか免疫を有しておらず、専門家によれば、今後も新たに感染拡大の波が複数回あることも予測されています。

高齢者施設や医療機関等では、高齢者や病気の方々が感染されないように当分の間は基本的な感染予防を徹底していく必要があります。

一方で、約3年半に及ぶ新型コロナ感染症禍により、高齢者も外出機会や人との交流機会が減り、結果としてフレイル症候群、認知症への移行や症状悪化者の増加が指摘されています。

超高齢大国のわが国では、高齢者が健康寿命を延伸して元気で社会の役割を担えることと要援護・要介護になっても安心して暮らせるよう支える社会づくりが重要です。そのためには「予防」と「共生」を両輪とした施策の推進が求められます。

今号では認知症をテーマにこれらの事を考えてみたいと思います。わが国の認知症高齢者は462万人(2012)から2025年には700万人近くになることが予測されています。これは65歳以上の5人に1人が認知症となることを意味し、私達にとって認知症はもはや身近な問題です。

6月23日の南日本新聞では認知症やその疑いのある方で行方不明者として全国の警察に届け出のあった人数が延べ18709人で2012年の9607人からこの10年で倍増したことが報告されています。幸い多くの方は生存・所在確認されていますが、一方で事故等により亡くなった方々もおられるとのことであり、認知症を社会全体で支えることが必要な時代です。

わが国の認知症施策は2012年の「認知症推進5か年計画(オレンジプラン)」にはじまり、2015年に「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」が策定され、認知症への理解を深める普及・啓発や治療とケア、研究などが推進されてきました。

さらに超高齢社会・長寿化に伴い、認知症が増加するにつれ、認知症の人が認知症とともにによりよく生きていける社会づくりが必要として、2019年に「共生」と「予防」を目指す「認知症施策推進大綱」が取りまとめられました。

この場合の「予防」とは単に「認知症にならないこと」のみを目指すのではなく、「認知症になるのを遅らせる」、「認知症になっても進行を穏やかにする」ことを意味しています。これらの予防対策研究(ライフスタイル等)が国内外で盛んに推進されており、新薬の開発と承認も見込まれています。

「共生」については、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに取り組む福岡県大牟田市をはじめとする自治体や活動グループが増えてきており喜ばしいことです。

これらの動きに後押しされ、この度、念願であった「認知症基本法」が2023年6月14日に成立しました。

この法律は「認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望をもって暮らすことができるよう認知症の予防から共生までの支援施策を総合的に推進する事」を目的としています。

認知症の予防から共生まで、認知症とともに生きるお膳立ては揃ってきました。

あとは、家庭、医療や介護福祉の現場、地域のほかあらゆる生活の場で法の精神をいかにして具現化していくか、私達国民の意識改革と地域社会づくりにかかっています。

超高齢社会・長寿社会では老化現象の一つとも言える認知症は身近な問題になってきているにもかかわらず、家族等身近な人が認知症になった時、認知症の方の症状や言動を素直に受け入れがたく、対応に苦慮し尊厳が保たれない場合が多いことも事実です。

ましてや地域における理解も未だ十分とはいえず、偏見に苦しんでおられる本人・家族も多くみられます。

まずは、子供から高齢者まで全国民が改めて認知症を正しく理解し意識を変えるところからです。

本号では、まず、認知症医療の専門家である済生会鹿児島病院内科部長・在宅医療推進室長の黒野明日嗣先生に認知症についてのお話を伺います。

済生会鹿児島地域福祉センターでは認知症グループホームや特別養護老人ホーム等で認知症の方々の介護をさせて頂いております。スタッフは認知症を良く理解し、認知症とともに生きる方とその気持ちを尊重し、寄り添いたいと願いつつ日々介護に励んでおります。

ここでは、認知症介護の現場から認知症の方々やご家族とかかわる中で感じたことや深く学んだことをご紹介させていただき、ご家族や地域の皆様と一緒に、認知症を良く理解し、認知症とともに生きる方々との共生のあり方を改めて考える機会に資することができますようお願いしております。

大雨、酷暑、熱中症、新型コロナ第9波危機、インフルエンザ流行と続く最近ですが、皆様におかれましては、どうかご自愛の上、お健やかに今夏をお過ごしください。

2023年7月吉日



これって、病気なの？



認知症という病気との付き合い方

わたしたちが出来ることは？

済生会鹿児島病院内科部長
在宅医療推進室長

黒野 明日嗣 先生



皆さんは認知症に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？

なりたくない、防げるなら防ぎたい、ごもっともです。認知症は病気ですので、病気は予防したい、なりたくない考えるのは当然でしょう。一方で認知症は歳をとるとなりやすくなる病気でもあります。日本では遺伝する認知症は数%ですので、ほぼほぼ歳をとるとというのが一番大きな危険因子になります。そうなんです、長生きすればするほど認知症になる可能性が高まるという法則があるのです。もはや完全に避ける方法がないのです。

ここで少し昔を振り返りますと、昔の高齢者は畑に行ったり、近所の人とお茶を飲みながら喋ったり、縁側で冬はひなたぼっこをしながらうとうとしたり、私の持つ昔の高齢者のイメージはそんな感じです。今の高齢者はそれに比べると日々の生活が忙しく、高度で難しくなっていると思います。テレビや扇風機は昔は本体に数個あるボタンを押せば動きました。今やテレビ本体にはボタンがなくてリモコンになり、そのボタンの数たるや66個にもおよびます(我家のリモコンで数えました)。そしてそのリモコンもエアコン、ビデオ、オーディオなど我家にはリビングだけでも4台もあります。総ボタン数はなんと184個。今と昔では日常生活で要求される能力が増えているのです。

高齢になると正常でも認知機能は下がっていくことが分っています。60才ぐらいまでは横バイですが、その後は下降してゆき90才は60才の20~40%も認知機能は下がると言われています。世の中が便利になればなるほど、認知症があってもなくても年をとった時に支障が出やすい環境になっているともいえます。

そんな時代に生きる私達はどのように生活したら良いのでしょうか。

認知機能が落ちる一方で、昔の経験や記憶は保持されています。ですから、私たちは今のうちにいろいろな人と会話し、いろいろな経験・体験を積んでおくことが必要なのではないでしょうか。物質的なものではなく、大事な人との関係を濃くしていく、語り合える人をつくる、世の中がどんどんデジタルになり、スイッチ一つ、スマホ一台で何でも出来る時代だからこそ、人と会ってじっくり話すというのが重要になってくるのだと思います。そこで作られた人間関係や体験・経験、信頼関係が、認知機能が落ちてきたときに重要になるのではないのでしょうか。哲学者のエイブラハム・マズローによると自己実現を成し遂げた人たち、言い換えると豊かな人生を送った人は友達が少ない代わりに、ひとりひとりの関係が深いとのこと。まずは一番身近で信頼すべき家族とものと対話をさせてはいかがでしょうか。日々顔をつきあわせているから話すことはない？同じ毎日はないはずではないと思っているから同じと感じているだけではないのでしょうか。

信頼出来る人たちとの会話を積んで来たるべき認知症に備えましょう。

認知症になった家族を支援する立場から

居宅介護支援センター高喜苑管理者

中附 真由美

鹿児島市長寿あんしん相談センター「町丁別3階層人口と高齢化率」(令和5年4月1日)によると鹿児島市の総人口は59万6千245人。そのうち65歳以上が16万9千909人。高齢化率は、28.5%です。わが国は世界一の長寿国であり、高齢者の人口は今後も増加し、2025年には高齢者の5人に1人、国民の17人に1人が認知症になるものと予測され、私たちにとっても、認知症は身近なものであり特別なものではありません。

身近になってきた認知症ですが、同じことを何度も聞かれると「さっきも言った!」とついつい、口調が厳しくなってしまうその後、ご本人が落ち着かれずソワソワしてしまうことはありませんか。

脳科学的には、脳の記憶に影響する場所の海馬が委縮してしまうと、新しいことが覚えにくくなりますが、その場では理解していて感情が動きます。そして、感情中枢の「扁桃体」はしっかり機能しているので、のちのち、何が起こったか忘れてしまいますが、嫌なことをされた事だけ(記憶)は残ってしまい、落ち着かない状況になるそうです。

さて、介護する側(介護者)の状況はどうでしょう。介護される方を優先し、自分の気持ちや色々なことを我慢し、心身ともに余裕がない状況や、これまで築いてきた、双方の関係性から影響を受けイライラが募ることもあります。

私自身は、母が亡くなり認知症をもつ父の介護が始まった当初は、同じことを何度も繰り返す父に地団駄を踏んで怒ったり、ケアマネジャーなのに・・・と自分を責めたり、心身ともに余裕がない状況を自分で作り出していました。

介護は、24時間365日必要です。そのため認知症問わず、介護者にお勧めしているのは、「私が私に優しく、起こっている感情を否定しない。」ことです。

例えば、父に対してイライラしている私自身の感情に目を向けると、私は父が同じことを繰り返し聞くことに対して怒っているわけではなく、母が亡くなった悲しみに父は自分だけが悲しいと感じているように私自身が想像し、そんな父に対しての戸惑いや、それをみて悲しいと感じる私自身に気づきました。そして、私も同様に母を

亡くした悲しみの中にいることに気づき、父と寂しさを共有することで、父に対してのイライラではなく、寂しさになりました。イライラなどの怒りは、マイナスな感情に思われますが、それを放置することで、他にも影響を及ぼします。

介護者自身が、今の自分の身体、心の状態に少し目を向ける時間を作り、介護サービス等をうまく活用しながら、心の栄養も充足できるようにしましょう。



不安や心配を取り除いてあげたい

済生会なでしこの杜 施設長

大迫 良代美

なでしこの杜には42名の方がご入居中です。

住宅のご入居様の現在の平均年齢は91歳。皆さん、多かれ少なかれ加齢による認知機能の低下や医学的に認知症との診断を受けられた方もお住まいになっています。

私が住宅の職員として、認知機能の低下が見られる方々との関り方で、何より大切にしていることは、個々の方の認知機能の低下を「認知症」だからと、ひとくくりにするのではなく、あくまでも個々の症状を多様的に特徴、症状として捉えるようにしています。

入居者のAさんは88歳、身の回りのことはある程度ご自身でされます。ただ、記憶力が著しく低下されている為、日常は多くのお声掛けが必要です。Aさんは毎日ご家族の来所をととても楽しみにして一日を過ごされます。Aさんには大切なものがあります。それは、大事に育てられた自慢の娘さんです。本当に信頼を寄せられ、娘さんの言葉や表情を感じ受け取ることが、毎日の生活の糧となっておられます。

Aさんは、わたしたち職員に、頻回に(5分おきぐらいの時も)・・・「娘はまだかな」と聞かれます。事務所や併設する事業所の職員は、Aさんの質問に「うまく」答えています。私も「うまく」答えそうになります。でも、Aさんは対応する職員の態度や言葉を微妙に感じ察しられます。いつもは、「わかった。そうねえ。」と微笑を浮かべて、娘さんの来所を待ち望まれますが、「なんでね、さっきもそう言ったがね。ほんとに娘はくるの?」と、眉間にしわを作り、興奮して話されることがあります。これは、私たちが「うまく」答えようとしているからです。私も、Aさんの顔を見てしっかり答えることが出来ないことがたまにあります。

多くの認知症の皆さんは、気持ちの不安や心配などが日頃の活動に大きく影響されます。興奮して考えもしない行動をとったり、大きな声や汚い言葉を並べることもあります。悲しくてたまらなくなり泣いてしまうこともあります。

私たちは、その不安や心配を取り除いてあげたらよいだけなのです。でも、私たちも時間や余裕がないと、つい「うまく」答えてしまいがちになります。

その方の症状や特徴をきちんと受け止め、「どうしてそのような行動や発言をされるのか?」「何がそうさせているのか?」を考えて、お話が出来ればよいのです。

これから先も、度あるごとに心に届くようにきちんとお話ししていきたいと思っています。



専門職として、職員の関わり方を考える

グループホーム武岡ハイランド 管理者

宮田 茂樹

認知症ケアにおいて、一般的なお世話をするという介護や看護では、良いケアとは言えません。

その中でも、認知症ケアの専門職として関わるのであれば、なおさらハードルは上がります。なぜなら一般的な介護や看護では、認知症の方にとっては、とても苦痛でしかない場合もあります。

例えば、認知症の方に多くみられる、記憶障害によって生じる物忘れや同じ話を何度もすることに対して、「さっき言ったばかりでしょうが。」とか、「同じ話ばかりしないで。」と、語気を強めて答えてしまうと「なぜ、そんなに怒っているのだろう。」と、ストレスを感じたり、「同じ話はしていない。」と、暴力的になったりするケースがあると思います。そこには、記憶障害という認知症の「中核症状」の一つがあり、否定したり怒ったりしてしまうと、逆の効果に繋がり兼ねません。

そこで、専門職としては否定や怒ることなく、人格を尊重しながら、物忘れに対しては、その思いに寄り添い、同じ話を何度もすることに対しては、しっかりと向き合いながら、話を傾聴する姿勢が必要となります。

また、グループホームという認知症の方のみの施設の中で、職員とのかかわり方は、なおさら専門職としての力量が試されます。認知症の症状は、皆様それぞれに違いがあり、その方の性格や個性、人生を尊重した、独自のケアが必要となります。

昨日できたケアが、今日できないことは、よくあることで、そこが認知症ケアの面白さの一つでもあり、やりがいでもあります。

これからも、認知症の方の思いに寄り添いながら、あなたらしく生活ができる環境作りに努めていきたいと思います。



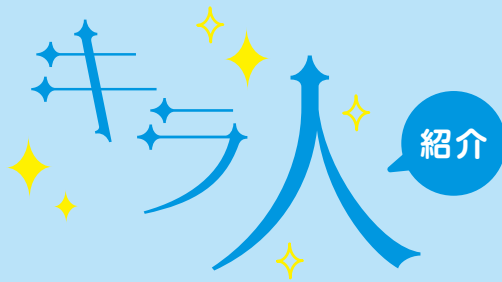
『認知症基本法』2023年6月14日に成立

法律の目的は、「認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことができるよう、施策を総合的に推進する」認知症がある人でも尊厳を持って社会の一員として自分らしく生きるための支援や、認知症予防のための施策を定めるための法律。

【基本理念】

(アルツハイマー型認知症などいわゆる「認知症」と呼ばれる疾患のほか、脳神経などの疾患により認知機能が低下した状態も含む)

- 認知症の人やその家族の意向を尊重すること
- 地域での生活・共生に向け、認知症に対する国民の理解を深めること
- 保険医療サービス・福祉サービスが切れ目なく提供されること
- 家族に対する支援を行うこと
- 認知症・認知機能障害の予防、診断、治療、リハビリテーション、介護に関する研究開発を推進し、活用すること
- 教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉など関連する分野で総合的に取り組むこと



済生会地域福祉センター 副所長兼事務部長を迎えて

当福祉センターの事務部長森秀樹さんへインタビュー
今年度、当福祉センターに新たに事務部長として
森 秀樹さんを迎え入れました。

Q ご本人には大変失礼ですが、お歳を伺って宜しいですか。

A 現在67歳です。この歳で、今年度採用のセンター新人職員です。

Q 今回入職に至るきっかけは何かありましたか？

A このセンターの代表者である吉田所長さんは、以前大変お世話になった大先輩・上司なのですが、事務部門のスタッフが不足して厳しい状況なので少し助力してほしいとお誘いを受けまして、私でよろしければと返事した次第です。老兵かつ微力ではありますが、少しでも皆さん方のお力になればと思っています。

Q 入職されて、感じられるセンターの魅力をお聞かせください。

A やはり全国的組織の済生会の一員として、歴史と伝統の重みを感じられ、社会的に信頼される組織であると感じます。それに、当センターは、同じ済生会鹿児島支部の中で、鹿児島病院、川内病院など医療との連携も深く、多様な福祉需要に対応できる法人だと思っています。また、何よりも職員の皆さんが入所者や利用者の方々の安全・安心を最優先して支援に努めている組織だと思っています。

Q 森部長、ご自身では言いにくいかもしれませんが、ご自身をPRしていただけますか？
例えば、動物で例えたら？ その理由は？

A 干支が羊なので、牧羊犬に追い立てられる、のんびりした性格の羊かなと。PRできる話ではないですね。(笑)

Q 部長、これからの意気込みをお聞かせください。

A 今もそうだと思いますが、風通しの良い職場環境づくりは大事ですね。職員の皆さんが明るく活き活きと笑顔で仕事をされれば、利用者の方の満足にもつながっていくと思います。そのために必要なこと(業務の改善や制度の見直しなど)があれば、何でもお手伝いをしたいと思います。

森部長、インタビューへお答えいただき有難うございました。

森部長はいつも優しく微笑んで
職員の後押しをして下さいます。
センターのキラ人として、
今後とも活躍頂けると確信しています。



済生会鹿児島地域福祉センター
副所長兼事務部長

森 秀樹

血液型：AB型 星座：おとめ座 好きな言葉、座右の銘：仁恕

「ウィズコロナ」から「アフターコロナへ」



新型コロナ感染症確認から3年、ご高齢者の集団環境に求められる自粛生活とそれに伴うご利用者・入居者様のQOLの低下。ご利用者・入居者様・ご家族そして職員にも、これまで抱えたことのない苦悩がありました。そして、学びがありました。

また、一人のコロナ感染が確認されると一気に感染拡大しクラスターに繋がる厳しさ。そしてそれを防ぐため、長きに渡りご利用者・入居者様・ご家族に多くのご理解・ご協力を頂いて参りました。誠にありがとうございます。

5類感染症へ引き下げとなり変化する現在、当センターにおける取り組みをご報告いたします。

対面面会の再開

入居者様がご家族との繋がる幸福感、ポジティブな影響への期待

センター各施設で直接面会を再開しております。また、外出・外泊もいくつかのお願いをする中で可能となっております。

面会時間は約15分程度・人数は2名まで可能・マスク着用・換気の実施など条件付きではありますが、ご家族とご入居者が対面でお過ごしいただき幸福感に包まれたお時間をお過ごしいただければと考えております。



その他の活動も再開・拡大へ

- 外食行事・ドライブ・買い物支援などの施設行事
- マッサージボランティアなどの受け入れ

これまで習得してきた感染予防対策のノウハウを活かし、高齢者の安全を第一と考え、ご入居者の日常生活の取り戻し、QOLの向上に取り組んでまいります。

※これからも、感染拡大が懸念される状況になった際は再度制限を設けさせていただくこともございますので、ご了承ください。



海を見ながら食事を！（なでしこの杜）

あくまき作りと中学生交流

済生会なでしこの杜

5月の節句を迎えた初旬に、鹿児島ならではの餅菓子の「あくまき」作りを入居者としました。前の晩から洗い、灰汁に漬けこんだもち米を水で柔らかく戻した竹の皮に包み約3時間煮込みました。竹の皮に包むときは、各それぞれの包み方や竹の皮ひもでの結び方があり、「こうした方がいい、ああした方がいい」と言いながら、皆さんが楽しく行いました。

午後からおやつ時間を設けて、きな粉のこおばしい匂いと共に、少し渋めのあるあくまきを美味しく頂きました。

また、この日は数年ぶりに近くの中学校から中学3年の学生さんが職場体験に来ており、入居者の皆さんと一緒にあくまき作りをするなどの交流を行いました。コロナ感染症が5類になり、久しぶりに迎い入れた学生さんとの交流のうれしさに涙を流す方もいらっしゃいました。

これからも、いろいろな体験を通して、入居者様の生活に楽しみと喜びのある時間を提供できればと思います。



済生会鹿児島地域福祉センターと一緒に働きましょう！（職員募集）

済生会鹿児島地域福祉センターには、高齢者の入所施設や住まい、介護保険の通所事業所や訪問事業所があります。鹿児島市内、地域の高齢者の皆様やそのご家族が安心して生活できるよう、地域包括ケアシステムの礎となるべく、多職種の職員が業務にあたっています。介護職員はもとより、看護職員・生活相談員・ケアマネージャーの職員や資格がなくても働ける介助員さんなど、多くの事業所で職員を募集しています。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

「問い合わせ先：済生会鹿児島地域福祉センター TEL 099-284-8250」



春のイチゴを手にして

グループホーム武岡五丁目

コロナ感染症の流行もあり面会や外出の制限をしてきましたが、感染状況も落ち着きが見られるようになり、グループホームでは久しぶりにドライブに出かけました。

この日は、デイサービスの車を借りて桜の花見がてら近くの道の駅に出かけました。武岡台から伊集院へ向かう街道には、トンネルをつくるように桜の花が満開でした。

道の駅では、職員がとれたてのイチゴを購入し入居者にお渡ししました。新鮮なイチゴに「赤白の色で珍しいね、かわいいね。甘いにおいがするね」と、とても喜んでいただけました。

ドライブ中は「ここは知ってる道だ」、桜の花を見ては「綺麗だね」と道中笑顔で話が弾みました。きれいな景色や良い香りを体感し穏やかな時間を過ごすことが出来たと思います。人込みに出ることはまだ難しいところですが、皆さんの気分転換と共に、次はどこがよいかなと考えています。



福祉センター職種別人数

(R5年6月現在)

介護職員	82名
看護師	21名
ケアマネジャー	8名
管理栄養士	2名
生活相談員	4名
理学療法士	8名
作業療法士	1名
事務職員	9名
介助員	8名



済生会鹿児島
地域福祉センター

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでしこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町2番46号

TEL 0996-23-5221 **FAX** 0996-23-9797

編集 後記

蒸し暑くじめじめと感じるこの季節が始まり、これから熱中症や脱水症に注意が必要となります。また、感染症の発症は終息が見えずにいるところです。そのような中、少しでも気持ちよく爽やかに過ごすためには…。を考える今日この頃です。私のデスクには携帯用扇風機を置いて涼を感じています。最近は、Cool製品の良いものが多く発案されています。試せるものを試し、皆さんも心身ともに気持ちよく過ごしましょう。

